

阿蘇火山中岳の噴火情報 [2016年10月8日]

現地調査報告第一報 (10月8日～10日)・第二報 (10月9日～11日)

地質調査総合センター¹⁾

<https://www.gsj.jp/hazards/volcano/aso/2016/index.html> より転載

はじめに

熊本県の阿蘇火山中岳で2016年10月8日未明に噴火が発生しました。活断層・火山研究部門では直ちに噴火への対応を検討し、緊急現地調査や噴出物の分析等を行うこととしました。

本噴火対応は、大学(京大火山研究センター、熊本大等)・関係機関(防災科学技術研究所等)との協力、および気象庁との連携の下に実施しています。今回の噴火に関する調査解析結果は、火山噴火予知連絡会等へ随時報告するとともに、ウェブサイトを通じて一元的に発信して参ります。なお、記載された内容は、今後の調査研究の進展により修正・変更することがあります。

今回の噴火概要と対応

阿蘇火山中岳第1火口で2016年10月8日午前1時40分頃(気象庁発表)に爆発的噴火が発生しました。噴煙高度は1万1千mに達し、阿蘇市を中心に直径数cmの火山礫が降下し、一部地域では停電やビニールハウス・車のガラスなどに被害が発生しています。降灰は、大分県などの九州北東部だけでなく、四国の愛媛県松山市や香川県高松市などでも観測されています。気象庁では、この噴火を受け、噴火警戒レベルを2から3(入山規制)に引き上げました。

地質調査総合センターでは、噴火推移を把握するため8日から現地調査を実施するとともに、噴出物の分布調査や火山灰分析などを進めています。

調査報告資料

現地調査報告第一報 (2016年10月8日～10日)

阿蘇火山中岳における2016年10月8日未明の爆発的噴火の発生を受け、産総研地質調査総合センター活断層・火山研究部門では、緊急地質調査を実施しています。

現地調査は2名2班(計4名)で実施し、今回の噴火により放出された火山灰・火山礫の分布調査並びに岩石・鉱物学的な分析試料の採取を行っています。両班とも10月8日に現地に入り、A班は10月11日まで、B班は10月10日まで調査を実施し、既に帰庁しました。



写真1 植物の葉の上に残された火山灰の採取(大分県大分市今市石合公民館)。



写真2 雨で流され濃集した火山灰の採取(大分市での火山灰採取)。

1) 産総研 地質調査総合センター



写真3 長湯温泉付近（雨に流された後、車の下に溜まる火山灰（大分県竹田市直入町長湯温泉付近））。

火山灰の分布調査は火山灰の噴出量の推定の為に実施するものです。熊本大学をはじめとする大学や防災科学技術研究所などの研究機関の研究者と連絡を取りつつ調査を行っており、今後調査データを集約してゆく予定です。

試料とした火山灰は、気象庁や大学から提供される試料とも併せて、解析を進めます。マグマ物質の有無など噴出物に含まれる構成物の特徴を解明することで、噴火のタイプに関する検討や、これまでの噴出物との比較による活動推移の検討を進める予定です。

現地調査報告第二報（2016年10月9日～11日）

阿蘇火山中岳における2016年10月8日未明の爆発的噴火の発生を受け、産総研地質調査総合センター活断層・火山研究部門では、緊急地質調査を実施しています。ここでは、第一報に掲載していない、大分県から熊本県阿蘇市（阿蘇カルデラ北東部）での調査結果を紹介します。阿蘇市での調査は熊本大学の研究者と合同で実施しました。

中岳の北東方向に位置する熊本県阿蘇市では、火山灰とともに灰色の火山礫が降下していました。火山礫の大きさは火口から北東方向に3kmで最大7cm、9kmで3cmに達しています（写真1、2）。火山礫は、明灰色～灰色の固結した凝灰岩のかげらが大部分です。表面に泥のコーティングがされたものや、表面の一部が赤色酸化したものもあります。堆積物は淘汰が悪く、一部は泥の塊として着地し

たようです。

中岳火口から北東20kmの熊本・大分県境付近でも、最大1cm程度の火山礫と細粒火山灰が降下していました。さらに東の火口から30km近い大分県竹田市の一部でも、最大粒径は4mmに達しています（写真3）。火山礫が降下した地域は細長く北東に伸びた軸をなしており、軸から離れると急速に粒径が小さくなります。多くの地点で“泥雨”の跡があり、細粒火山灰は雨と一体となって降下したようです。また、由布市や大分市など遠方では、火山灰のほとんどは洗い流されており、一部でその痕跡を確認することができました（写真4）。

これら降下火砕物の分布や粒径の調査結果は、大学や各研究機関の調査結果と集約するとともに噴出物の解析についても進めていく予定です。

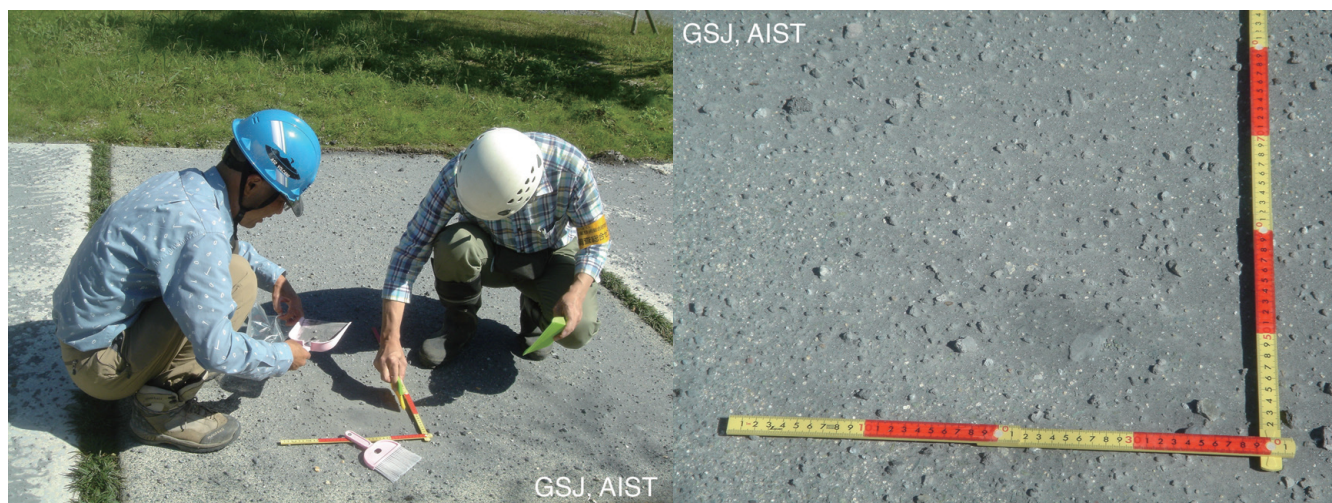


写真1 熊本県阿蘇市での降灰状況。灰色の火山礫と細粒火山灰からなる降下火砕物（10月10日撮影）。



写真2 駐車場にちらばる火山礫 (10月10日撮影, 熊本県阿蘇市仙酔峡). 右は採取した火山礫.



写真3 自動販売機の上に残る火山礫 (左) とガードレールに付着した“泥雨”の跡 (右). 10月8日夜の雨のため一部は失われている (竹田市米賀, 10月11日撮影).



写真4-1 遠方で確認された降灰の痕跡. 10月8日の降雨のため洗い流されているが, 駐車場などに痕跡が残されている. 大分市では最大粒径1-2mm程度の火山灰を採取することができた.



写真 4-2 遠方で確認された降灰の痕跡。10月8日の降雨のため洗い流されているが、駐車場などに痕跡が残されている。由布市庄内町では最大粒径 1-2mm 程度の火山灰を採取することができた。

噴火予知連絡会資料

産総研から火山噴火予知連絡会に提出した資料を公開しました。

阿蘇中岳 2016 年 10 月 8 日噴火の空撮映像の判読 (速報) (PDF, 2.4MB) : (2016 年 10 月 13 日掲載) (https://www.gsj.jp/hazards/volcano/kazan-bukai/yochiren/aso_20161013_1.pdf)

阿蘇中岳 2016 年 10 月 8 日噴出物の構成粒子 (PDF, 3MB) : (2016 年 10 月 11 日掲載) (https://www.gsj.jp/hazards/volcano/kazan-bukai/yochiren/aso_20161011_1.pdf)

阿蘇山 10 月 8 日噴火により放出された SO₂ 量 (PDF, 481KB) : (2016 年 10 月 11 日掲載) (https://www.gsj.jp/hazards/volcano/kazan-bukai/yochiren/aso_20161011_2.pdf)

関連情報

産総研・地質調査総合センターでは、阿蘇火山に関して、以下の関連情報を公開しています。

阿蘇火山中岳の噴火情報 [2014 年 11 月 25 日] (<https://www.gsj.jp/hazards/volcano/aso/2014/index.html>)

阿蘇山 (日本の火山データベース) (https://gbank.gsj.jp/volcano/Quat_Vol/volcano_data/J33.html)

火山地質図 No. 4 「阿蘇火山地質図」 (地質図カタログ) (<https://www.gsj.jp/Map/JP/volcano.html>)

火山地質図 No. 4 「阿蘇火山地質図」 (地質図 Navi) (<https://gbank.gsj.jp/geonavi/geonavi.php#12,32.89509,131.04321>)

※いずれの URL も 2016 年 10 月 13 日確認